

リスクを理解する（前編）

日本人の保有資産は主に預貯金。よく聞く話ですよ。そして、預金から投資へ。これもよく聞く話で、日本政府が推奨しています。ですが、どこと比べて預貯金の割合が多いのでしょうか？そして、何故投資をしないといけないのでしょうか？その答えはアメリカをはじめとする欧米諸国との資産形成スピードの違いです。昨年 2019 年 10 月には消費税がさらに 2% 増加。1989 年に初めて消費税が日本で導入されました。当時の税率は 3%。1997 年に 5%。2014 年に 8%。そして 2020 年現在は 10%。老後 2000 万円問題なんて情報も流布しています。普通預金金利 0.001%、10 年円定期預金 0.01%（2019 年 12 月現在：三大メガバンク）。このまま預貯金に眠らせておくか、リスクをきちんと理解して預け先を変えるか、続きを読む中で考えてみてください。

では、具体的に日本とアメリカの金融資産を比べてみましょう。1995 年から 2016 年までの両国の資産増加率と資産割合を比べてみます。まずは資産増加率について、1995 年の日本の家計における保有資産は 1,182 兆円。2016 年には 1,815 兆円に増加しています。資産増加率はおよそ 1.5 倍。一方、1995 年のアメリカの家計における保有資産は 2,343 兆円（22.8 兆ドル・1995 年末 1 ドル = 102.9 円）。2016 年には 8,821 兆円（75.5 兆ドル・2016 年末 1

ドル=116.9円)。資産増加率はおよそ3.7倍。(平成28事務年度金融レポート：金融庁)

日本人はリスクを極端に嫌う。そしてまた、リスクとはマイナスであり、お金に関して言うと、資産を失ってしまうと感じている。一方、アメリカ人はリスクを厭わない……。違います。アメリカ人も日本人同様、リスクを嫌います。ただ、**リスクとは何かをきちんと理解し、リスクをコントロールする術を知っている**だけなのです。日本の学校では教えてくれない金融の話、と~~~~つても大切です。

では話を進める前に、なぜ日本人は「預貯金は美德」と長らく認識してきたのかの経緯を解説します。1945年日本は終戦を迎えました。戦後の日本を復興するためにはお金が必要。日本政府は賠償金の支払いもあり、お金はない。そこで目を付けたのが、個人の金融資産。当時の政府は敗戦から復興するための財源として、個人の金融資産を活用することにしました。大きく捉えると、1950年辺りから1990年まで普通預金金利や定期預金金利は5%~7%で推移。7%という金利は12年で元金が2倍になる計算です。日本政府は預貯金を推奨し、日本国民は高金利の定期預金にせっせとお金を預けていきました(1952年には日本銀行による貯蓄増強中央委員会が発足)。結果、個人から集めた資産で見事に日本は復興することが出来ました。そして、約40年近く続いた高金利時代の影響で今も預貯金に偏った資産配分になってしまっている現状です。

ちなみに余談ですが、『お金』は『自然』と逆で高い所から低い方へ流れるのではなく、低い所から高い方へと移動します。

話を進めます。まずリスクとは何か？多くの人が持っている、マイナス・損失・危険（デンジャー）という認識。リスクとは危険なこと（デンジャー）ではありません。これは間違いです。リスクとデンジャーの違いをイメージしやすいように2つ例を上げます。1つ目、例えば赤信号にも関わらず、それを無視して横断歩道を渡ってしまうと交差点に進入してくる車にひかれてしまう可能性大。これは明らかにデンジャーな行為です。ふつう、しませんよね！皆さんは日常的にきちんと信号を守って横断歩道を渡っていると思います。それでも、年に数回ニュースになるように、信号をきちんと守り、横断歩道を渡っていた人に過失は無くても、重大な事故に巻き込まれてしまうことがある。これがリスク。もう一例、夏になると海や川で遊ぶことがありますが、遊泳禁止の場所で泳ぐこと。危険であることが明らかに分かっている中で、敢えてそこで遊ぶ。これもデンジャーな行為。一方、普通に遊泳可能なライフセーバーが見守っているような場所でルールを守って遊んでいても、やはり毎年一定数の人が水難事故にあっています。つまり、日常的にリスクとはどこにでもあり、避けられないものであり、日頃我々は知らず知らずのうちにきちんとリスクと上手く付き合っているのです。一方、危険は敢えて避けて、自ら進んで選択することはしていないのです。

では再度、リスクとは何なのか？少し専門的になりますが、投資理論のなかでは期待した『リターン』に対するブレを『リスク』と認識します。つまり、期待したリターンからプラスにブレても、マイナスにブレても両方ともリスクと表現するということなんです。リスクとはブレであると認識を改めてください。なお、リスクとリターンの関係をゴルフで例えると『遠くの目標に飛ばそうとすれば前後左右のブレは大きくなる。ブレを小さくしようとするとも飛距離は短くなる。』 = 『大きなリターンを期待すればリスク（ブレ）は大きくなる。リスク（ブレ）を抑えようとするともリターンは小さくなる。』と言った感じです。ゴルフしない人には分かりにくいかな！？（私もしません。）

リスクを理解した後は、リスクをコントロールする方法をお伝えしたいと思いますが、肝の部分になりかなりの文章量になると思いますので、今月はこちらまでにして、来月の『リスクを理解する（後編）』にて、リスクをコントロールする方法についてお伝えします。一般的に運用には3つの「知恵」（あるいは運用の3つの「基本」）があると言われていています。お楽しみにしてください。

S L 2 3 0 3 - 3 2 2 0 - 3 2 3 2

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟